

## 原発事故の福島に暮らす知人の声をお聴き下さい

大震災から8ヶ月が過ぎ、福島第二原発事故の放射性物質の除染は遅々として進んでいないよう。

津波被害が甚大だった地域で復旧・復興に立ち向かう人々の声に比べ、福島県民は避難を余儀され、また風評被害を被っているにも拘わらず、そうした人々の叫びは報道では少ないような気がする。

原発事故のために理不尽な苦渋の日々を強いられている福島県民を思い遣る一助になればと思い、ある知人からの声をお伝えします。

【 今、福島は、特にお母さんたちは、放射能問題と静かに戦っています。

県外へ避難していく方も、とどまる方も、みんなが苦しい選択をしています。

怒りや悲しみは、簡単にぶつけられるものではありません。憤ってみても、怒ってみても、それは空しいことです。

自分の住んでいたところを着の身着のまま追われ、飼っていた動物たちも置き去りにしてこなければならなかった人たちもいます。

育てた農作物を県外に住む娘に送ったら「もう福島のもの送ってこないで」と電話がきた、という話もあります。

福島には、悲しみが漂っています。

みんな、黙々と生きています。ここにいていいのだろうかと思いつつ生きています。

地震前と同じように暮らしていても、笑っていても、何かが違うのです。

この先、何十年続くのか… いつになったら地元の野菜を心からおいしいと思って食べられるのか… 子どもたちの未来は、福島の未来は… 毎日淡々と生活していても、ふとした瞬間にそんなことを考えずにはられません。

でも、わたしはここで生きていくことを決めています。この震災がなかったら、自分がこんなに故郷に愛着をもっていることには気づかなかったかもしれません。

阿部先生に「今福島で生きているわたし」を伝えたくてメールさせていただきました。】